

## 熊谷税務署管内納税貯蓄組合連合会長賞

### 税について考える

熊谷市立妻沼西中学校 三年 山田 愛里

「税」と言われると、難しいイメージを持つ人が多いかもしれませんが。しかし税金は、私たちの身近なところで使われています。医療、教育、公道の整備など、普段の生活の中で当たり前のように利用しているものに関しても、税はなくてはならないものとなっています。

医療に関して言えば、その負担額はほとんど税によって賄われています。もしここで税金が適用されなかったなら、私たち個人の負担はとても大きなものとなります。また、長期の入院などがあっても、医療保険制度が整えられているので一人一人の出費は最低限に抑えることができているのだと思います。

また、教育に関して言えば、九年間の義務教育の中で私たち一人一人にかかる諸費用は莫大なものです。ここでもまた、税金の担う役割は大きいと言えます。もし仮にその全てを各家庭で補っていかなければならないとするなら、年の近い子どもが三人も四人もいる家庭では、それは不可能に近いことだと思います。また義務教育ではないにしろ、国公立の高等学校でも、国はたくさんの費用を負担してくれています。

今、日本の社会では、高齢化が進んでいます。それに伴って福祉施設の需要も大きくなってきています。国でもそのような公共の施設や運営を援助してくれていますが、この分野でも税金は活躍しています。特別な介護を必要とするお年寄りや、身寄りのないお年寄りにとって、このような援助はなくてはならないものだと思います。

ここで取り上げたのは、税の使い道のほんの一例ですが、ほかにも道路整備や公共の様々な施設などにおいても、税は活用されています。また、国にとって大切な事柄を決定する国会議員や公務員の人々の給料にも、税金は適用されています。

しかし、国の中で重要なポストについている人が、自分の地位や立場を利用して、税を流用してしまったというニュースを、時折耳にします。そのような人は、国民からの信頼を得て責任の大きい仕事を任されているわけだから、それは決してあってはならないことだと思います。

税は、私たちが豊かな暮らしへ渡す橋のようなものです。一人一人がきちんと納める税金が、誰もが住みやすい社会へ、より一層つながっていくといいです。